

# エネ含めた自給自足生活が理想

## 長野環境人士

小林光さん

対談

阿部智子さん

自然に優しく、暮らしを楽しく



阿部智子さん 34  
おかげさま農園(茅野市豊平)経営

### スムーズに生きる

小林 なぜ有機農業を。  
阿部 2015年ごろから2年3カ月間、ハーブ療法を学ぶため、イギリスに滞在しました。師事したハーブ療法の先生のパートナーの男性がオーガニックファームを運営していました。そのお宅に住み込みで、日中は農場、夕方からハーブ療法の勉強という毎日を送りました。否応なくオーガニック生活が始まりました。最初は特に興味はなかったのですが、体に良い変化が生まれました。それがきっかけです。

小林 良い変化を実感したというんですね。

阿部 はい。これが人間が生きるのにスムーズな状況なんだと思ったり戻れなくなりました。都市部では高いお金を出してオーガニック食材を購入している層がいます。私はそれだったら自給自足を目指そうと思いました。イギリスでの滞在は先は雨水をためて、生活に使う分を循環させて、エネルギーも太陽光や風力でつくる自給自足の家庭でした。この暮らし方は私の理想です。その第一歩を「農業でやってみようか」と言ってく

れたのが今の相方です。

小林 自活するために必要な農地は確保できていますか。生産規模は順調ですか。

阿部 はい。むしろ、生産規模は大きすぎるころまでできてしまったような気がしています。今、畑や田んぼが6カ所にあって合わせて1・4畝ほどの農地で有機栽培を行っています。先輩農家さんに「男は無限に農地を増やしたがるから、女がしっかり手綱を持っている方がいいよ」と冗談半分に言われたことがあります。なんだか領土を広げたい戦国武将みたいです。

小林 広くなっても有機ですか。

阿部 もちろんです。自分たちで食べる分は作り、余った分を販売します。畑の脇で直売もすれば、マルシェにも出店します。有機栽培の農産物の仕入れにこだわっている飲食店にも販売しています。そうしたお店のご店主さんには直接、畑まで買い付けに来てくれます。私たちのこだわりを理解してくれている人たちと顔が見える関係で売り買いができていいなと思います。畑を手伝ってくれる人もありますよ。



小林光さん 73

元環境省環境事務次官。東京大先端科学技術研究センター研究顧問。茅野市行政アドバイザー(環境分野)

## 第一歩を有機農業で

### オーガニック特区

小林 無農薬の体に与える良い影響を実感し、野菜や苗を買ってくれる人がいて、さらに適正な規模の農地も確保できている。そうした中でこの地で有機農業を続けていくことに苦労はあります

阿部 ある先輩農家さんの話

のですが、どんなに気を使って畑づくりをしても隣の畑から農薬が風に飛んで流れてきてしまうことがあるそうです。農薬の使い方もしっかり学んで使っている人とも何となく使っている人がいて二分化しているみたいなんです。有機をやっている人、農薬を使って野菜を仕上げている人、どちらが悪いというわけではない



無農薬、無化学肥料野菜にこだわって栽培しているおかげさま農園の阿部さんと小林さん(5月17日)

### 行政からの支援を

小林 私は大学の講義で学生に伝えているのですが、環境の目利きが増えれば環境は良くなると思うのです。そういう意味でも阿部さんには頑張ってもらいます。

阿部 ありがとうございます。

私も農村体験に来た子どもの農業体験の受け入れを増やしています。茅野市糸貫地区で立ち上がった長年継続している日帰り農村体

験ほっとステイというプログラムがあって、当農園もその受け入れ先の一つになっています。農業体験楽しかったなあ」というくらい印象がいいんです。子どもたちの頭の片隅に残ってくれたらいいかなと思います。

阿部 収入から家賃や移動のためのガソリン代、それにちょっとした食品を差し引くと、決して多くは残りません。でもお金に困

## 環境負荷への大小が価格でも評価される社会を

小林 私には面白いですが、お客さんの意識によっても違うと思うんです。実はこの場所で農業を始めた最初の年、農園の入り口にある無人販売所で野菜に値段を付けないで販売したんです。そうしたら、支払っていく金額もお客さんによって大きく違いました。環境にいい状態で生まれた商品が高く買われるのは環境に貢献していることになる。そうした消費行動の意識を理解している人は多いとは言えません。学校で習うわけでもないし、世の中の定説にもなっていない。一方で有機野菜の良さを伝える方って難しいと感じることはあります。

### 消費者の意識

小林 有機野菜は高く売れますか。  
阿部 はい。市場価格の1・5倍くらいで買ってもらっています。

小林 私は環境に負荷をかけるに生産された物が、負荷をかけて生産された物と同じ値段でなければ売れないというのはいくらも思っています。再生可能エネルギーでつくった電気と石炭でつくった電気が同じ価格というのはひどい。「同じ値段なら環境にいいものを買います」と言う人がいますよね。でもこれ「環境のためにはお金を払わない」と言っているのと同じなんです。いいものには高いお金を払う。大事な考え方だと思うんです。

阿部 そうした意識は、お客さんの意識によっても違うと思うんです。実はこの場所で農業を始めた最初の年、農園の入り口にある無人販売所で野菜に値段を付けないで販売したんです。そうしたら、支払っていく金額もお客さんによって大きく違いました。環境にいい状態で生まれた商品が高く買われるのは環境に貢献していることになる。そうした消費行動の意識を理解している人は多いとは言えません。学校で習うわけでもないし、世の中の定説にもなっていない。一方で有機野菜の良さを伝える方って難しいと感じることはあります。

たなあという思いをしたことがないです。ただ、茅野市で農業をしてみようと思うのは、有機農業だと補助金などの行政支援が薄いということ。私の理解不足があったかもしれませんが、使える支援制度がないと受け止めてしまい、当初は赤字。3年目ようやく黒字になりました。望めるのであれば、有機でもそうではない農法でも同じような支援を受けられたらうれしいなと思います。